

# 平成 29 年度国際理解ワークショップ進行シート

作成日：2017年8月 日

大学名： 上越教育大学タイトル： わかり合うための秘密道具って？

## 1：本ワークショップの要旨

本ワークショップでは、異なる文化を背景として様々なトラブルが生じるという異文化摩擦に焦点をあてる。そして、誰もが同じように物事を見たり、考えたりするわけではないことを体験的に学びながら、他者との協働や共生について考えてもらいたいと思っている。その為以下のような学習課程を通して、本ワークショップを進めていく。導入部では、グループ別に子どもたち自身が全員に通じる共通点を探る。次に展開部では、2つの内容を行うことを予定している。1つは異文化摩擦の事例紹介である。ここでは、異なる文化的背景により考え方や表現の方法が異なる日本人と外国人の間に起こったトラブルを見せる。その後トラブルの原因や感じたこと、考えたことについて子ども達に議論してもらおう。もう1つは、異文化摩擦に繋がる異なる文化的背景の紹介である。終末部では、ある状況で「あなたならどう行動する？」という質問により教室内の違いや多様性を明らかにする。

## 2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

グローバル化が進んだ現代、人・モノなどの交流は日々行われている。その一方で、世界的に見れば宗教対立があったり、国内でも日本人と外国人の間で問題が生じたりと、異文化による摩擦は絶えない。しかし、異なるものを、私たちはわかろうとしているのだろうか。“異文化”をわかり合えない理由にしていらないだろうか。異文化間の摩擦事例を通して、その背後にある生き方に触れるとともに、教室内の“異文化”も浮き彫りにしながら、“異文化”と共存しながら生きていく自分を開拓したい。

## 3：本トピックをとりあげる理由

近年の日本において外国人と関わる機会は増えている。訪日外国人観光客は外資系企業の参入や東京オリンピックなどにより更なる増加が見込め、関連して外国人労働者の需要も高まりを見せている。学校現場においても「内なる国際化」が進み、文化的背景が異なる子ども同士が共に学んでいる。このような現状において求められる力が異文化を理解する力である。異なる文化を理解する第一歩は、相手と自分との違いに気づくことである。違いに触れることで自分の常識が絶対ではないことに気づき、相手の価値観を尊重したり、相手の文化へ理解を示すこともできる。私たちの日々の生活を振りかえれば、同じ国に生まれ育っても年代や職業、地域など様々な違いに基づく異文化が存在している。外国人だけでなく異文化を理解する力は私たちの身近にいる他者と上手に付き合っていくためにも欠かせない力である。以上のことから自分とは異なる他者に目を向けることで、共に生きていく難しさや重要性を再認識し、今後の社会生活に役立てることができるのではないかと思い、本トピックを取り上げた。

4：活動過程 (使用時間： 90分 参加人数： 何人でも可 )

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する教材・備品	予想される反応. その他, 注意事項
導入：起 (10分)	<p>【アイスブレイク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5人1グループ(男女混合)をつくり、そのグループ内の共通点をたくさん挙げる(5分間)。</li> <li>・班で挙げた共通点を発表しあい、共有する。</li> </ul>	<p>「このグループの共通点をできるだけたくさん探して、画用紙に書きましょう」</p> <p>「多く共通点が挙げた班が勝ちです」</p> <p>「共通点を探すのは簡単だった？難しかった？」</p>	<p>5人の共通点を探すために対話をし、新たな共通点に気づくことの楽しさを味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙8枚</li> <li>・マジック8本</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこの班よりも多く共通点を見つけるぞ。</li> <li>・あなたも〇〇好きだったの？知らなかった！</li> <li>※5人1グループで輪になる隊形。机はなし。</li> </ul>
展開：承 (30分)	<p>【クイズ・シュミレーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摩擦事例を数点示し、自分だったらどう感じるかなどを話し合う。(ホームステイでの摩擦などを取り上げ、寸劇で見せる)</li> <li>・日本人の国民性の背景を解説する。</li> </ul>	<p>「あなただったらどう思いますか」</p> <p>「何に花子さんは怒ったんだろう」</p>	<p>同じ場面でも、異なる感じ方をする他者の存在と、その文化的背景を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーン</li> <li>・プロジェクター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私もそうするから違和感を感じないな。</li> <li>・そんなにはっきり言ったら逆に失礼と思う！</li> <li>※スクリーンの見える位置に集合。</li> <li>※自分自身ならと生徒に問いかけ、自分自身を見つめなおすようにする。</li> </ul>

<p>発展 : 転 (30分)</p>	<p>【部屋の四隅】 ・具体的な場面で、自分がどう行動するか、どう思うかを問いかけ、自分の考えに一番近いところに分かれ、そう思う理由を共有する。</p>	<p>「今度は、起こりそうな場面をいくつか示します。こんなとき、自分はどうか、自分の考えに一番近いところにわかれてください」 「なぜここを選んだのですか」 「〇〇という理由を聞いてどう思いますか」</p>	<p>身近にいる同じ教室の仲間や友達の間でも、価値観の違いがあることに気づく。</p>	<p>・スクリーン ・プロジェクター</p>	<p>・楽しそう ・え、なんでそう思うの？ ※四隅に赤・青・黄・緑の画用紙を貼る。 ※中国の留学生も活動に交じり、意見を交流する。</p>
<p>まとめ : 結 (20分)</p>	<p>【わかり合うための秘密道具を探る】 ・多くの違いがあるのに、なぜ一緒にいるのかを一人ひとりワークシートに記入し、それを全体で交流する。</p>	<p>「こんなにたくさんの違いがあるのに、どうして〇〇さんは△△さんと友達でいられるのかな」 「〇〇さんだけでなく、皆さんの友達と、またクラスの仲間とたくさんの違いがありましたよね。では、こんなに自分と違う人と、どうして一緒にいるのですか。まずは一人ひとりの考えることを、ワークシートに書いてください。その後、書いたことを全体で交流します」</p>	<p>異なる価値観を持つ友達と、なぜ一緒にいるのかを、自らに問うことで、秘密道具は自分の心にすでに存在していることに気づく。</p>	<p>・ワークシート ・スクリーン ・プロジェクター</p>	<p>・なんでだろう？ ・もう持っているのか！</p>

## 5：会場のセッティング

スクリーン

※机・椅子はいりません。空間を広く使用します。ただし、ワークシートの記入等を床でします。

## 6：使用する教材

ワークシート

## 7：参考にした資料

- ・久米昭元・長谷川典子（2007）『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション 誤解・失敗・すれ違い』有斐閣選書
- ・原沢伊都夫（2013）「異文化理解入門」研究社
- ・石川一喜・小貫仁（2015）「教育ファシリテーターになろう！」弘文堂

## 8：その他